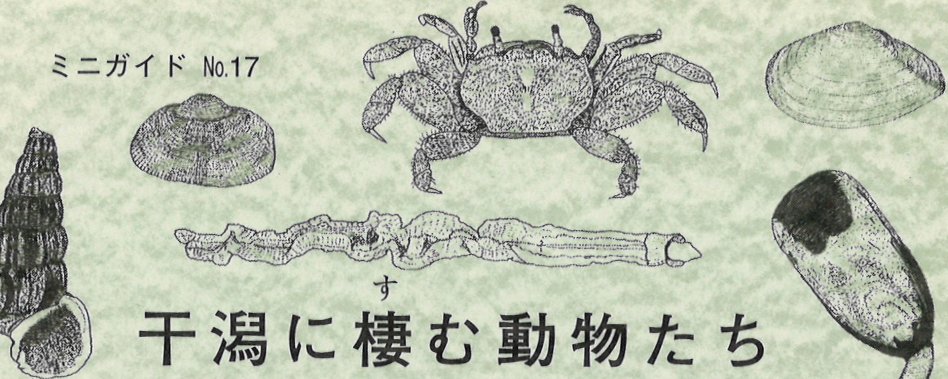
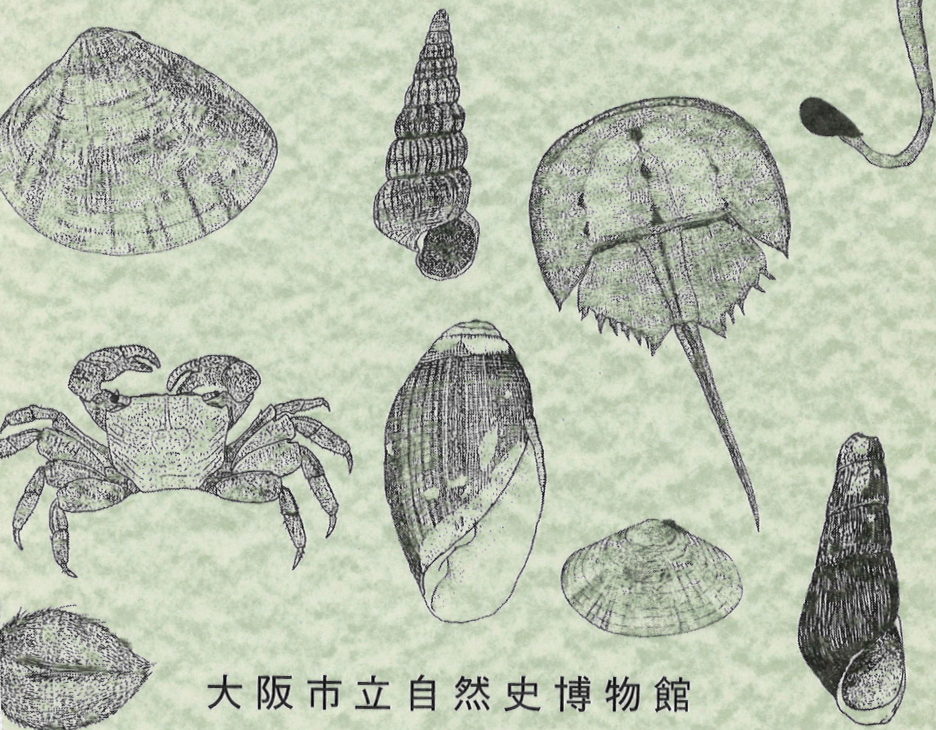


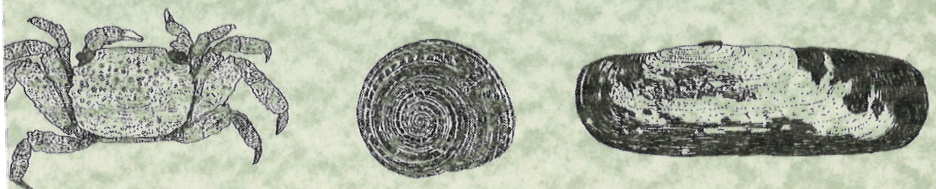
ミニガイド No.17

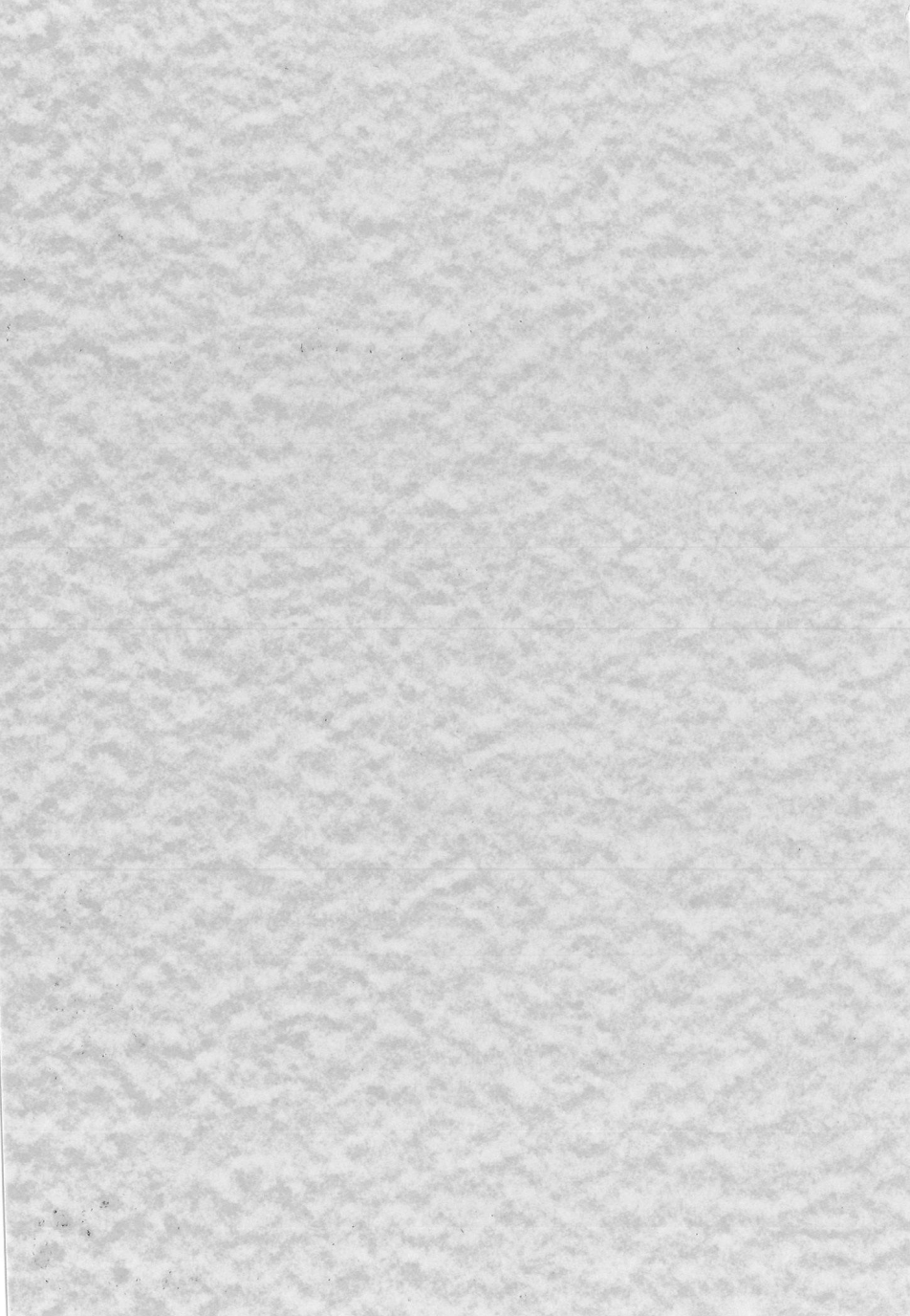


す
干潟に棲む動物たち



大阪市立自然史博物館





干潟に棲む動物たち

大阪市立自然史博物館

目 次

はじめに	1
干潟の生物観察	2
刺胞動物門：花虫綱：ウミエラ目，イソギンチャク目	3
触手動物門：腕足綱：舌殻目	3
軟体動物門：腹足綱	
原始腹足目	4
中腹足目	5
新腹足目	8
頭楕目，基眼目	9
軟体動物門：二枚貝綱	
翼形目	10
異歯目	12
無面目	16
異韌帶目	17
星口動物門：スジホシムシ綱	18
ユムシ動物門	18
環形動物門：多毛綱	
サシバゴカイ目	19
イソメ目	20
ツバサゴカイ目，ミズヒキゴカイ目	21
オフェリアゴカイ目，イトゴカイ目	22
節足動物門：節口綱：劍尾目	23
節足動物門：顎脚綱：無柄目	23
節足動物門：軟甲綱：十脚目	
クルマエビ下目，コエビ下目	24
アナジャコ下目，異尾下目	25
短尾下目	26
半索動物門：ギボシムシ綱	33
棘皮動物門：ヒトデ綱：モミジガイ目	33
棘皮動物門：ウニ綱：タコノマクラ目，ブンブク目	34
棘皮動物門：ナマコ綱：無足目	34
脊索動物門：硬骨魚綱：スズキ目	35
和名索引	36

はじめに

干潟ひがたとは、川が運んできた砂や泥が河口や海岸にたまり、潮が引いている間だけ顔を出すようになった平坦な土地のことです。自然の力による埋立作用の途中でできる地形とも言えるでしょう。

川は、砂や泥とともに、生物の栄養や餌になるさまざまな物質もいっしょに運んでくるので、干潟には数多くの生物が集まり、互いにさまざまな関係をもちながら生活を営むようになっていきます。

ひとくちに干潟と言っても、地形によって前浜干潟まえはまや河口干潟かこうなどの種類があり、堆積物の種類も砂、砂泥、泥などさまざまです。また、同じ場所でも、ほとんどいつも水に浸かっている所と、めったに水に浸からないところでは、大きく環境が異なります。それぞれの生物は、このようなさまざまな環境のどれかに適応して生活しているので、干潟すに棲む生物の種類すの数はいっそう豊富になっています。

近寄りにくく、また単調でおもしろくなさそうに見える干潟ですが、決してそのようなことはありません。

日本では、ここ数十年間にずいぶん荒っぽいやり方で数多くの干潟が失われてしまいました。残されている干潟を守っていくためには、もっと多くの人々が干潟の自然のすばらしさを知ることが必要です。

このミニガイドは、干潟の底生動物ていせいどうぶつの名まえ調べどうてい（同定）の手助けとして作成しました。日本の暖温帯海域の干潟せいそくに棲息する種類についてできるだけ網羅もうらするようにしています。ご活用ください。

用語解説

潮上帯ちようじやうたい：満潮になっても水に浸からない高さのところ。

潮間帯ちようかんたい：潮が満ち引きする範囲。満潮線と干潮線との間。

高潮帯かうしやうたい：潮間帯の上位の部分。

中潮帯ちゆうしやうたい：潮間帯の中位の部分。

低潮帯ていしやうたい：潮間帯の下位の部分。

潮下帯ちようか：干潮時にも、常に水面下にあるところ。

河口干潟かこうかんせう：河川流域の周辺にできる干潟。塩分の変動が大きく、また増水時には強く攪乱かくらんされる。

前浜干潟ぜんひんかんせう：海に面した所にできる干潟。波浪の影響を受ける。

河川の感潮域かんしやういき：河川の下流で、潮の干満による水位の変動が及ぶ範囲。

干潟の生物観察

§ 大阪周辺の観察地

いちばん身近なのは、淀川の河口干潟。右岸（下流に向かって右側）の西中島～十三にはヨシ原をともなった数ヘクタールの干潟が発達し、クロベンケイガニ、アシハラガニ、カワザンショウガイ、ヤマトシジミなどがわんさといます。対岸の中津周辺にもヨシ原と干潟がひろがっています。こちらには、ヤマトオサガニもいます。十三大橋の左岸のたもとには箱庭のような干潟があり、橋の上から双眼鏡で手軽に観察することができます。もっと海に近い塚本（右岸）や大淀北（左岸）にも干潟が続きます。

泉南方面では、泉南市の^{おの}男望川の河口干潟。河口で川幅が広がり、右岸の先端から砂嘴が伸びて河口を抱くような形で干潟を形成しています。ここでもさまざまな種類のカニを観察することができます。また、ハママツナ、ハマサジなどの塩生植物の貴重な群落も見られます。南海電鉄の「樽井」駅から徒歩で約15分。

貝塚市の^{こぎ}近木川河口にも干潟が形成されていて、堤防からハクセンシオマネキやヤマトオサガニ、アシハラガニなどを観察できます。ヨシ原にはハマガニ、クロベンケイガニもいます。南海電鉄「二色ノ浜」駅から徒歩約20分。

和歌山方面まで足を伸ばすなら、和歌川の河口干潟。見渡す限りの広大な干潟が続きます。カニ類だけでなく、ウミナナ類、さまざまな二枚貝類、トビハゼなどが棲息しています。バス停「和歌浦」下車すぐ。

もうひと頑張りして、有田郡広川町の西広海岸。ここはがらりと変わって、砂質の前浜干潟。コメツキガニの大集団や、近畿地方では少ないオサガニと出会うことができます。二枚貝の種類も多い。JR「広川ビーチ」駅から徒歩15分。

§ 観察の準備

まず、潮がよく引く日を選びましょう。満月か新月の前後数日間、いわゆる大潮の時期が適当です。だいたいお昼前後が干潮になりますが、できればあらかじめ干潮時刻も調べておきましょう。場所によっても違います。

季節は4月から10月までの間、夏の暑い時期は避けた方がよいでしょう。

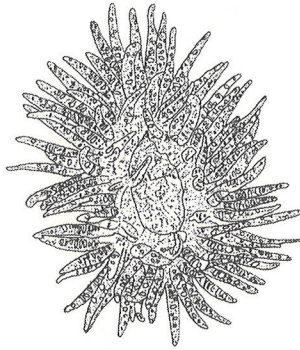
持ち物はピンセット、移植ごて、ルーペ、双眼鏡、地図、タオル、軍手など。服装は長袖、長ズボン。長靴も用意します。

写真やビデオを撮影するのも楽しいでしょう。

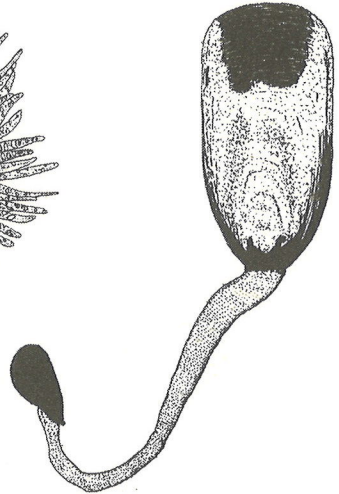
(p.38に続く)



ウミサボテン



ニンジン
イソギンチャク



ミドリシャミセンガイ

【刺胞動物門：花虫綱：ウミエラ目】

ウミサボテン科

■ウミサボテン *Cavernularia obesa*
：多数の個虫で構成される群体性の動物。水中で起立しているが、よく潮が引いた時には転がっているのが見られる。長さ10cm前後。砂地の低潮帯から潮下帯に棲息。

【刺胞動物門：花虫綱：イソギンチャク目】

ウメボシイソギンチャク科

■ニンジンイソギンチャク *Paracondylactis hertwigi*：砂中の深いところ

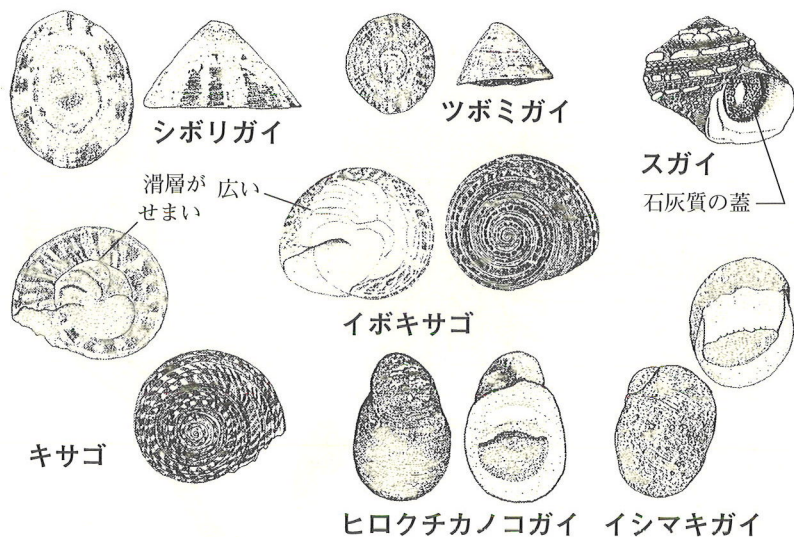
で固いものに付着している。触手を上げた直径4cm前後。砂地の潮間帯に棲息。

【触手動物門：腕足綱：舌殻目】

シャミセンガイ科

■ミドリシャミセンガイ *Lingula unguis*：有明海に産し、他の地方ではほとんど見られない。近年減少していると言われている。殻の長さは大きい個体では4cmに達する。砂泥地の潮間帯から潮下帯に棲息。同属のオオシャミセンガイは絶滅が危惧されている。

【軟体動物門：腹足綱：原始腹足目】



ユキノカサガイ科

■シボリガイ *Patelloida pygmaea* f. *pygmaea* : 潮間帯の、転石やカキ殻などの表面に付着する。ごく普通に見られる。殻の長径1~1.5cm。

■ツボミガイ *Patelloida pygmaea* f. *conulus* : 前種の一型と考えられ、もっぱらウミナナ類の生貝の殻の上に付着する。より小形で背が高い。

ニシキウズガイ科

■イボキサゴ *Umbonium moniliferum* : 内湾の低潮帯から潮下帯の砂泥地に棲息する。普通に見られたが、最近は減少している。殻径2cm前後。

■キサゴ *Umbonium costatum* : 外洋に面した海岸の低潮帯から潮下帯の

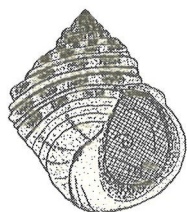
砂地に棲息する。殻径3cmに達する。
リュウテン科

■スガイ *Lunella coronata coreensis* : 磯や転石海岸の中~低潮帯に普通。干潟の転石上にも棲息する。殻径約3cm。

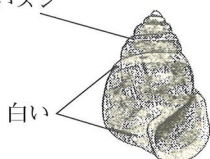
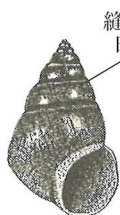
アマオゾネガイ科

■ヒロクチカノコガイ *Dostia violacea* : 河口干潟や塩生湿地内の止水環境周辺の石や木片などに付着する。殻径1~1.5cm。

■イシマキガイ *Clithon retropictus* : 河川感潮域の流水中に棲息する。ほとんど淡水に近い所にも分布する。殻径2cm。



タマキビガイ マルウズラタマキビガイ カワザンショウガイ



ムシヤドリカワザンショウガイ

クリイロカワザンショウガイ

ヒラドカワザンショウガイ

タマキビガイ科

■タマキビガイ *Littorina brevicula* : 内湾の岩礁やコンクリート護岸の潮上帯から潮間帯上部にごく普通で、干潟の周辺や干潟内の転石上でもよく見られる。殻長・殻径1.5cmまで。

■マルウズラタマキビガイ *Littoraria adonis* : 内湾の最奥部や河口に面した岸に分布し、前種と混じり合うことも少なくない。殻高1.5cm、殻径1cm未満。

カワザンショウガイ科

下記の4種は河口付近の高潮帯のヨシの間などの泥上に棲息し、混棲することも多い。

■カワザンショウガイ *Assiminea ja-*

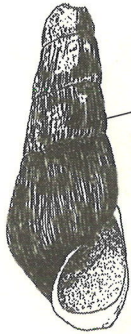
ponica : 殻高7mm程度。濃色帯が明瞭。各螺層の膨らみが強く、殻底は丸みを帯びる。

■ヒラドカワザンショウガイ *Assiminea hiradoensis* : 殻高7mm程度。濃色帯を持つが、認められない個体もある。殻底はやや角張る。

■クリイロカワザンショウガイ *Angustassiminea castanea* : 殻高6mmまで。全体に濃色で光沢がある。細長い。

■ムシヤドリカワザンショウガイ *Angustassiminea parasitologica* : 小形で殻高4mm程度。光沢がある。各属がふくらみ、体層の上部と殻底付近が白っぽい。

【軟体動物門：腹足綱：中腹足目②】



殻皮に
おおわれる

タケノコカワニナ



ホソウミニナ



(殻底から見たところ)



ふくらむ



ウミニナ



平たい



直線的

イボウミニナ



湾入する



トゲカワニナ科

■タケノコカワニナ *Stenomelania loebbeckei* : 殻高約6cmに達する。河川の感潮域の水たまりなどに棲息するが、産地は激減している。

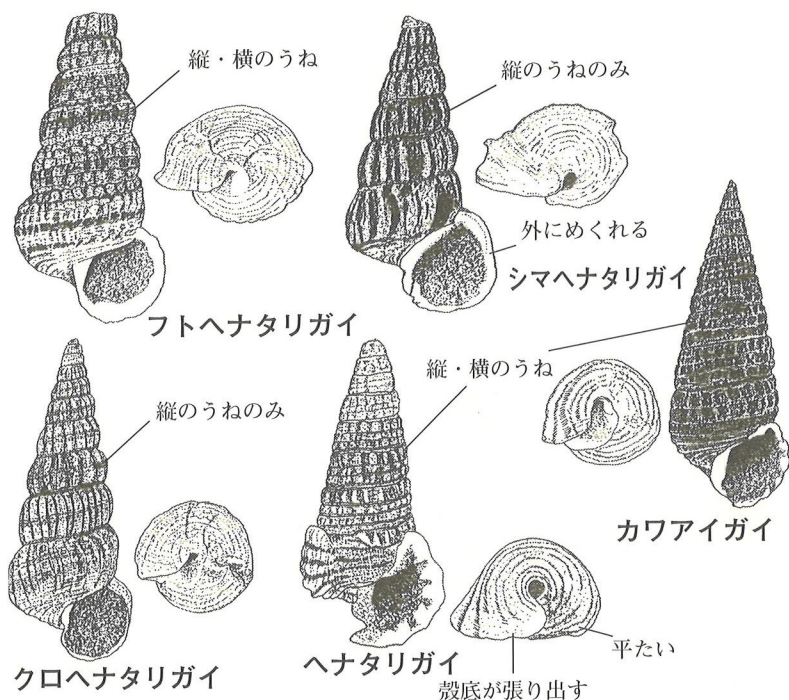
ウミニナ科

■ウミニナ *Batillaria multiformis* : 殻高約3cm。河口などの砂泥質の干潟

に棲息するが、近年は減少傾向にある。

■ホソウミニナ *Batillaria cumingii* : 殻高2.5cm。前種と混棲する。近年は増加傾向にあると言われている。

■イボウミニナ *Batillaria zonalis* : 殻高約3cm。前2種と同様の場所に棲息するが、本州では産地が激減している。



■フトヘナタリガイ *Cerithidea rhizophorarum*：殻高4cmに達する。オープンな干潟にも、ヨシの陰にも棲息する。転石や護岸、ヨシの茎などに這いのぼる個体も多い。近畿地方ではほとんど見られなくなっている。

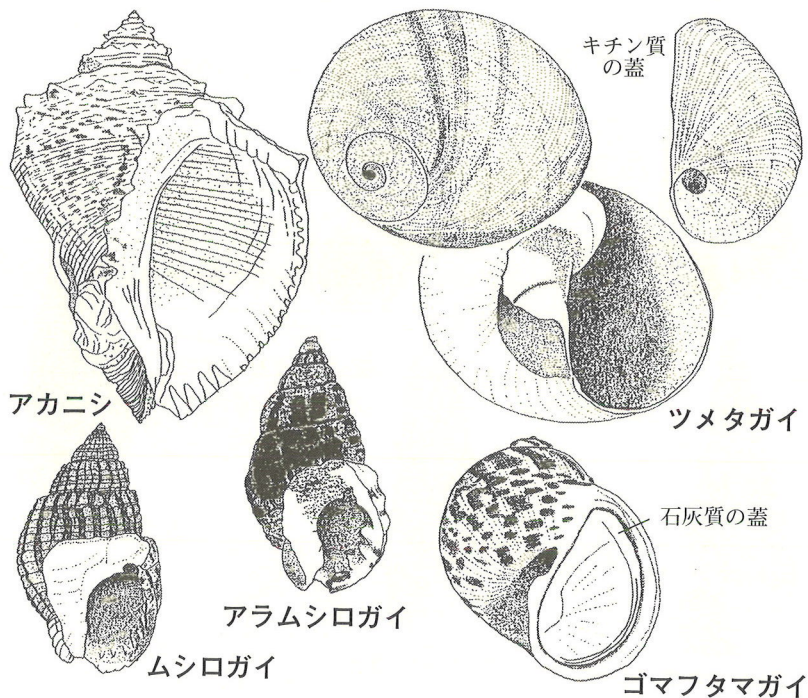
■シマヘナタリガイ *Cerithidea ornata*：殻高3.5cm。高潮帯から潮上帯のヨシの生えた湿地に棲息。ヨシに這いのぼる個体もいる。産地は有明海と周防灘周辺に限られる。

■クロヘナタリガイ *Cerithidea largillierti*：殻高3cm。棲息場所・産地は前種と同様である。湿った場所を好み、這いのぼることはない。

■ヘナタリガイ *Cerithideopsilla cingulata*：殻高2.5cm。砂泥干潟の平坦地に棲息する。

■カワアイガイ *Cerithideopsilla djadjariensis*：殻高3.5cm。河口に近い、やや泥質の干潟に棲息する。

【軟体動物門：腹足綱：中腹足目④，新腹足目】



【中腹足目】

タマガイ科

■ツメタガイ *Glossaulax didyma*：殻径12cmに達する。砂質の干潟の潮間帯から潮下帯に普通。砂中に潜って二枚貝を襲い、殻に穴をあけて食べる。「砂茶碗」と呼ばれる砂を固めた卵塊を造る。

■ゴマフタマガイ *Tectonatica tigrina*：殻径3cm。広大な内湾の泥質干潟に棲息するが、近年は激減している。死殻はよく見つかる。

【新腹足目】

アクキガイ科

■アカニシ *Rapana venosa*：殻高15cmに達する。内湾の砂泥質の低潮帯～潮下帯に棲息する。

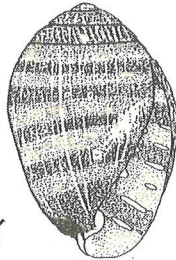
ムシロガイ科

■ムシロガイ *Niotha livescens*：殻高約2cm。外洋性の砂泥質の干潟に棲息する。腐肉に集まる。

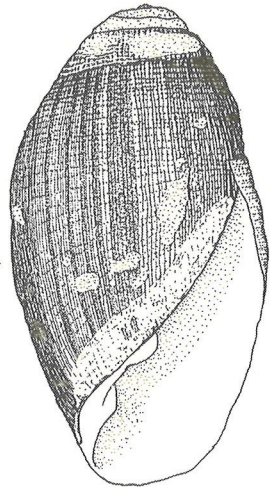
■アラムシロガイ *Reticunassa festiva*：殻高2cm未満。内湾の砂泥質の干潟に棲息する。腐肉に集まる。



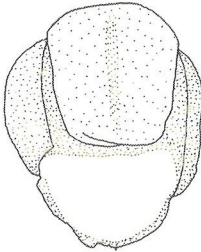
ムラクモキジビキガイ



キヌカツギハマシイノミガイ



オカミミガイ



キセワタガイ



クリイロコミミガイ

【頭楯目】

オオシイノミガイ科

■ムラクモキジビキガイ *Japanacteon nipponensis*：殻高1cm前後，砂質の前浜干潟に棲息する。

キセワタガイ科

■キセワタガイ *Philine argentata*：体は白色，貝殻は体の中に埋在する。体長3cm前後，砂質の前浜干潟に棲息する。

【基眼目】

オカミミガイ科

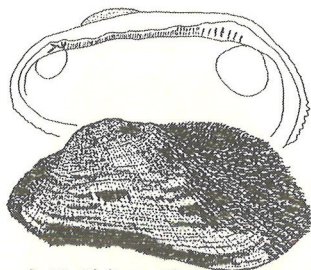
本科は有肺類（カタツムリの仲間）に属す。

■オカミミガイ *Ellobium chinense reiniana*：殻高3cm，老成すると重厚，潮上帯の安定したヨシ群落中に棲息するが，産地は限られている。

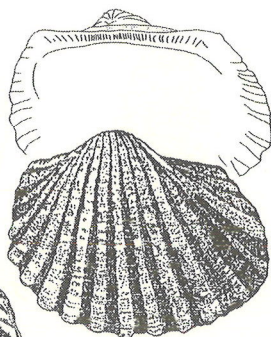
■キヌカツギハマシイノミガイ *Micromelampus sincaporensis*：殻高1cm，前種と同様の場所に棲息する。

■クリイロコミミガイ *Laemodonta octanflata*：殻高5mm前後，前2種と同様の場所に棲息する。

【軟体動物門：二枚貝綱：翼形目①】



カリガネエガイ



ハイガイ



ササゲミミエガイ



サルボウガイ



コウロエンカワヒバリガイ



ヒバリガイモドキ

フネガイ科

■カリガネエガイ *Barbatia virescens*
：殻長3cm前後。転石などの割れ目に足糸で固着する。

■サルボウガイ *Scapharca subcrenata*
：殻長約4cm。内湾の低潮帯から潮下帯にかけての砂泥地に多産する。

■ハイガイ *Tegillarca granosa*
：殻長約4cm。より閉鎖的な内湾の砂泥底に棲息するが、有明海および瀬戸内海の一部以外では絶滅したとされている。

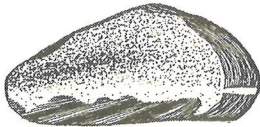
■ササゲミミエガイ *Estellarca oliva-*

cea：殻長2.5cm。干潟の泥の表面に棲息する。絶滅寸前といわれている。

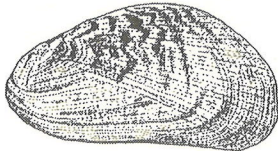
イガイ科

■ヒバリガイモドキ *Hormomya mutabilis*
：殻長2.5cm。内湾岩礁の中潮帯に普通。足糸で付着する。干潟の転石上においても見出されることがある。

■コウロエンカワヒバリガイ *Limnoperna fortunei kikuchii*
：殻長2~3cm。1970年代に日本に侵入した移入種で、きわめて普通に見られる。内湾や河口の護岸、転石に足糸で付着する。



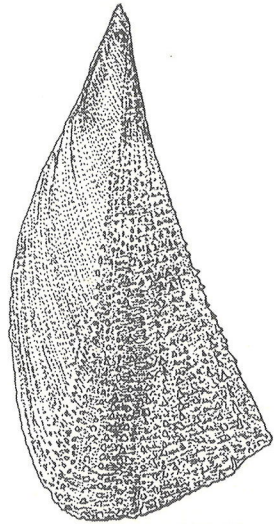
クログチガイ



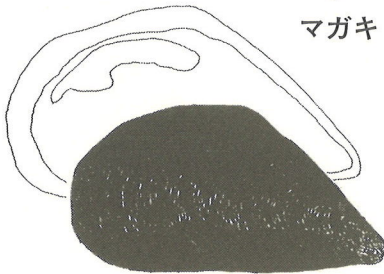
ホトトギスガイ



マガキ



タイラギ



ムラサキイガイ

■クログチガイ *Vignadula atrata* : 殻長1cm. 内湾の高潮帯の岩や転石の表面に普通. 足糸で付着する. 干潟の転石上においても見出される.

■ホトトギスガイ *Musculista senhousia* : 殻長2cm. 干潟や浅海底の平坦な所に密集群を形成する.

■ムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* : 殻長4~5cm. コウロエンカワヒバリと同様に内湾や河口の基物に付着するが, 塩分がより高い所に出現する.

ハボウキガイ科

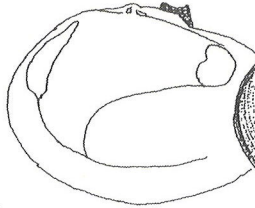
■タイラギ *Atrina pectinata* : 殻高約20cm. 潮下帯の砂泥底に突きささったように起立する. 干潟の低潮帯付近でも見つかることがある. 食用.

イタボガキ科

■マガキ *Crassostrea gigas* : 殻長5cm前後. 内湾から河口にかけての広い範囲の中潮帯に出現する. 干潟では転石上に重なり合って固着し, カキ礁を形成することもある. そのような所にはさまざまな小形動物が二次的に棲みこむ.



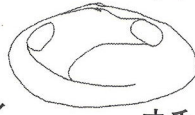
テリザクラガイ



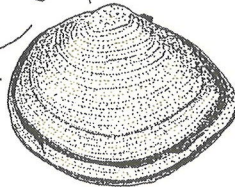
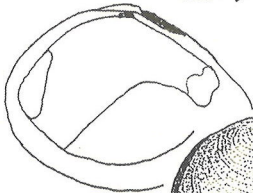
イソシジミ



ヒメシラトリガイ



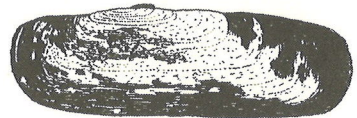
オチバガイ



サビシラトリガイ



ハザクラガイ



アゲマキガイ

■ヒメシラトリガイ *Macoma incongrua*：殻長2cm前後。各地の内湾の砂泥干潟に普通に見られる。

■サビシラトリガイ *Macoma contabulata*：殻長4cm。内湾の泥質干潟に棲息する。

シオサザナミガイ科

■オチバガイ *Psammotaea virescens*：殻長2～3cm。内湾の泥質干潟に棲息する。近年減少している。

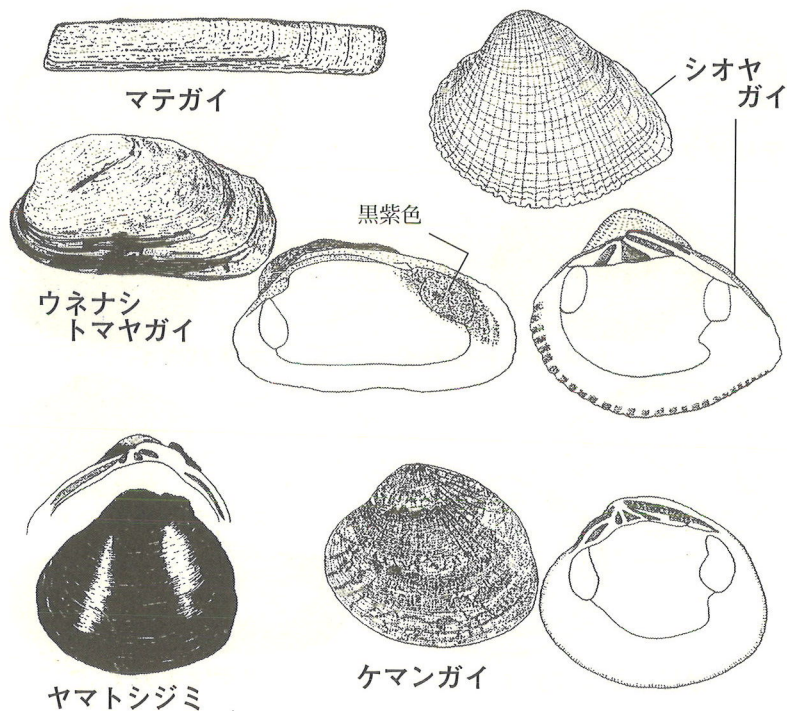
■ハザクラガイ *Psammotaea minor*

：殻長2cm。砂泥質の河口干潟に棲息するが稀れである。

■イソシジミ *Nuttallia olivacea*：殻長5cm。砂質～砂泥質の干潟に普通に見られる。アケミガイと称され釣餌に用いられる。

ナタメガイ科

■アゲマキガイ *Sinonovacula constricta*：殻長10cm。泥質干潟に棲息する。有明海に多産し、漁獲されていたが、近年激減している。



マテガイ科

■マテガイ *Solen strictus* : 殻長7cm前後。砂質の前浜干潟に棲息する。食用にされる。

マゴコロガイ科

■ウネナシトマヤガイ *Trapezium liratum* : 殻長2~3cm。カキ礁のすきまなどに足糸で付着する。

シジミ科

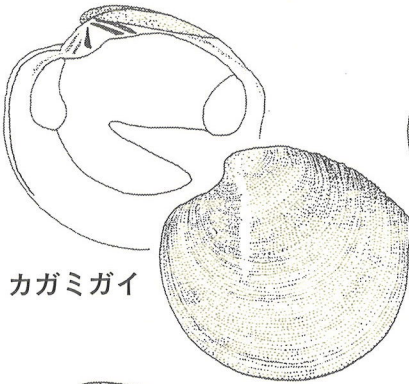
■ヤマトシジミ *Corbicula japonica*

：殻長3cm。河川の感潮域の砂質～砂泥質の低潮帯から潮下帯に棲息する。漁獲される。

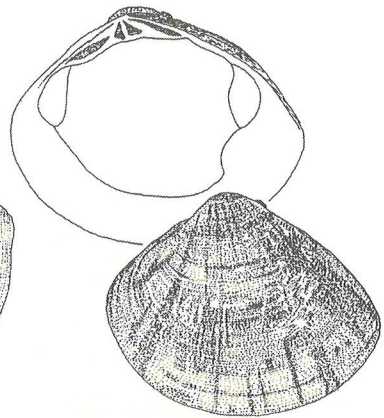
マルスダレガイ科

■シオヤガイ *Anomalocardia squamosa* : 殻長3cm。砂泥質の干潟に棲息するが、近年は激減している。

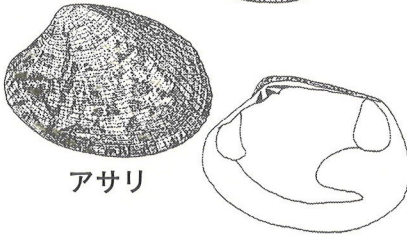
■ケマンガイ *Gafarium divaricatum* : 殻長4cm。砂質の前浜干潟に棲息する。近年は減少傾向にある。



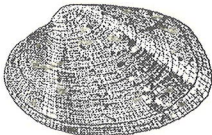
カガミガイ



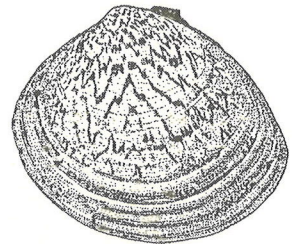
ハマグリ



アサリ



ヒメアサリ



シナハマグリ

■カガミガイ *Phacosoma japonicum*
：殻長5cm前後。砂質の干潟に普通に見られる。

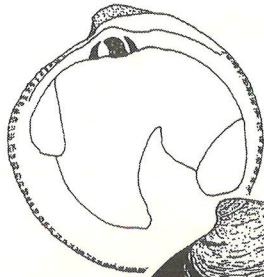
■アサリ *Ruditapes philippinarum*：
殻長3cm前後。内湾の砂泥質の低潮帯～潮下帯に普通に見られる。

■ヒメアサリ *Ruditapes variegatus*：
殻長3cmまで。前種より外洋的な環境に出現する。

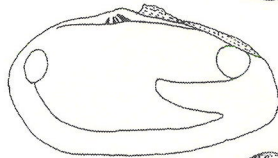
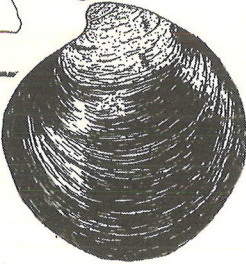
■ハマグリ *Meretrix lusoria*：殻長8cmに達する。外洋に面した前浜干潟に棲息する。食用にされるが近年は激減している。

■シナハマグリ *Meretrix petechialis*：
殻長9cm。もともと中国大陸沿岸産であるが、国内各地で種苗が散布されていて、前種と混在することがある。

【軟体動物門：二枚貝綱：異歯目⑤，無面目①】



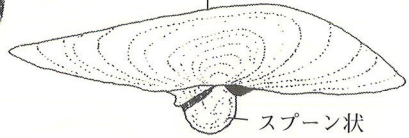
オキシジミ



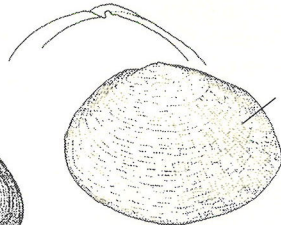
ハナグモリガイ



オオノガイ
(殻頂から)



スプーン状



縦の細溝

クシケマスホウガイ

オオノガイ科

■オキシジミ *Cyclina sinensis*：殻長5cm. 砂泥質の河口干潟などに埋在する。

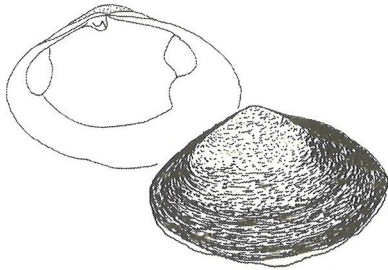
ハナグモリガイ科

■ハナグモリガイ *Glauconome chinensis*：殻長2cm. 河川の感潮域の砂質～砂泥質の干潟に埋在する。近年は減少傾向にある。

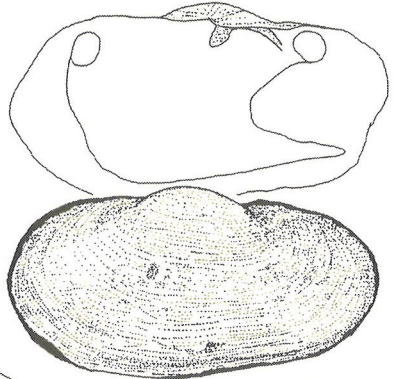
【無面目】

■オオノガイ *Mya arenaria oonogai*：殻長10cm. 内湾の泥質干潟の深所に埋在する。食用にされるが、近年は減少傾向にある。

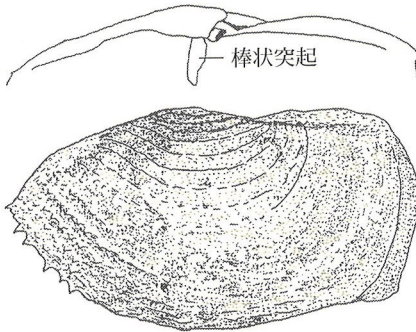
■クシケマスホウガイ *Venatomya truncata*：殻長1.5cm. 内湾の砂泥質の干潟に棲息する。近年は減少傾向にある。



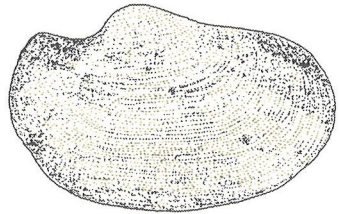
ヒラタヌマコダキガイ



ソトオリガイ



ウミタケガイ



オキナガイ

クチベニガイ科

■ヒラタヌマコダキガイ *Pomatocorbula* sp. cf. *laevis*：殻長2cm。河口域に棲息する。アジア大陸原産と推定される移入種で、有明海各地にひろがっている。

ニオガイ科

■ウミタケガイ *Barnea dilatata*：殻長5cm。太い水管を持つ。内湾の干潟に棲息する。食用にされるが、有明海以外では稀れである。

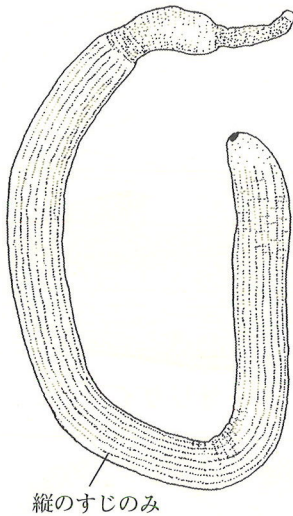
【異鞞帯目】

オキナガイ科

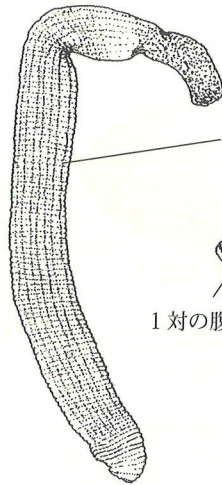
■ソトオリガイ *Laternula marilina*：殻長4cm。殻はこわれやすい。内湾の奥や河口の砂泥質の干潟に浅く潜る。近年は減少傾向にある。

■オキナガイ *Laternula anatina*：殻長5cm。内湾のやや外洋よりの砂泥質の干潟に棲息する。近年は減少傾向にある。

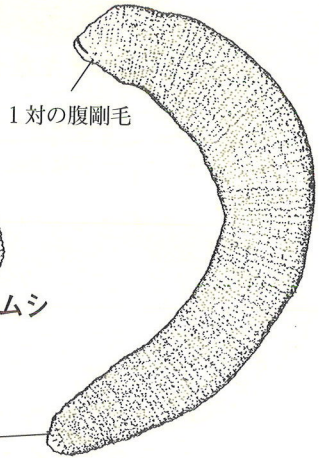
【星口動物門，ユムシ動物門】



スジホシムシモドキ



スジホシムシ



ユムシ

【星口動物門：スジホシムシ綱】

スジホシムシ科

■スジホシムシモドキ *Siphonosoma cumanense*：体長数10cm。刺激によって体があちこちでくびれて、ちぎれてしまう。前浜干潟の潮間帯～潮下帯の砂泥中に埋没して棲息する。

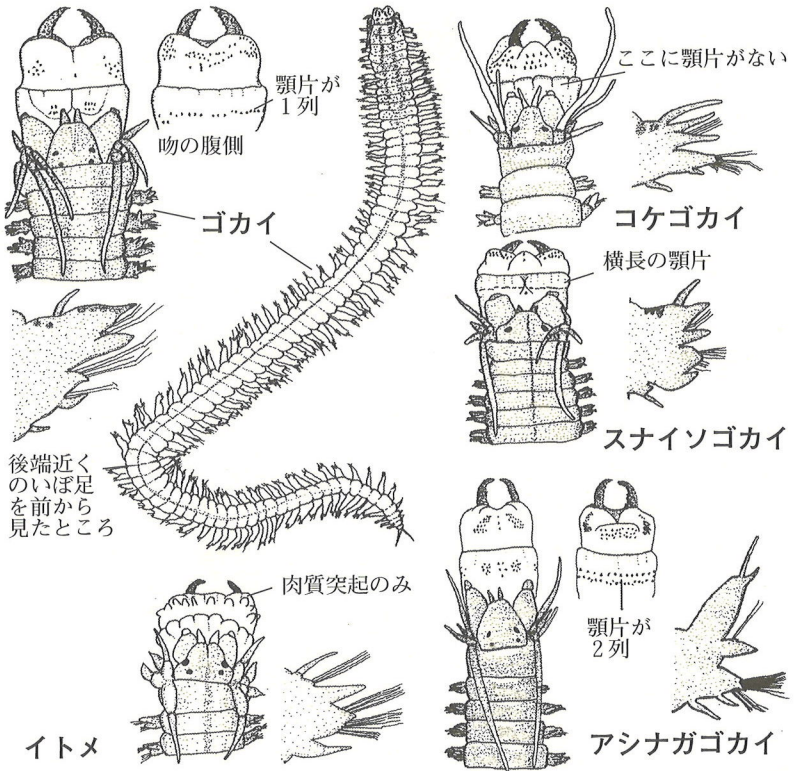
■スジホシムシ *Sipunculus nudus* 体長数10cm。前種のようにくびれることはない。前種と同様の場所に棲

息する。両種とも干潟に多産するが、近年は減少傾向にある。

【ユムシ動物門】

ユムシ科

■ユムシ *Urechis unicinctus*：体長数10cm。体は柔らかく、赤みを帯びる。潮間帯～潮下帯の砂泥中に巣穴を掘って棲む。多産して釣り餌に用いられるが、近年は減少している。



【サシバゴカイ目】

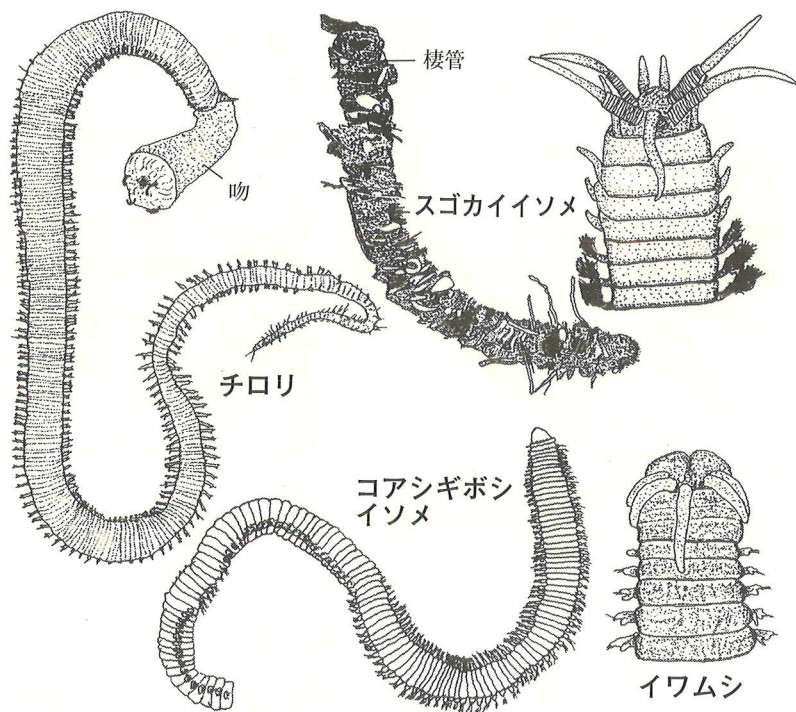
ゴカイ科

- イトメ *Tylorrhynchus heterochaetus*
：体長5cm前後、河川の感潮域の塩分の低い所に分布する。
- コケゴカイ *Ceratonereis erythraeensis*
：体長6cm前後、河口干潟の砂泥地に生息する。
- スナイツゴカイ *Perinereis nuntia*

vallata：体長8cm前後、外海に開けた砂泥地の高～中潮帯に棲息する。釣餌として利用される。

- ゴカイ *Neanthes japonica*：体長10cmに達する、河口干潟で高密度に出現する。
- アシナゴカイ *Neanthes succinea*
：体長10cm以上になる、内湾の奥の砂泥地の潮間帯に棲息する。

【環形動物門：多毛綱：サシバゴカイ目②，イソメ目】



チロリ科

■チロリ *Glycera chirori*：体長5cm前後。赤い風船のような吻を活発に出し入れする。砂～砂泥質の干潟にふつうに見られる。

【イソメ目】

ナナテイソメ科

■スゴカイイソメ *Dipatira bilobata*：体長数10cmに達する。ゴミを綴った棲管（巣）の中に隠れている。砂質の前浜干潟の低潮帯および潮下

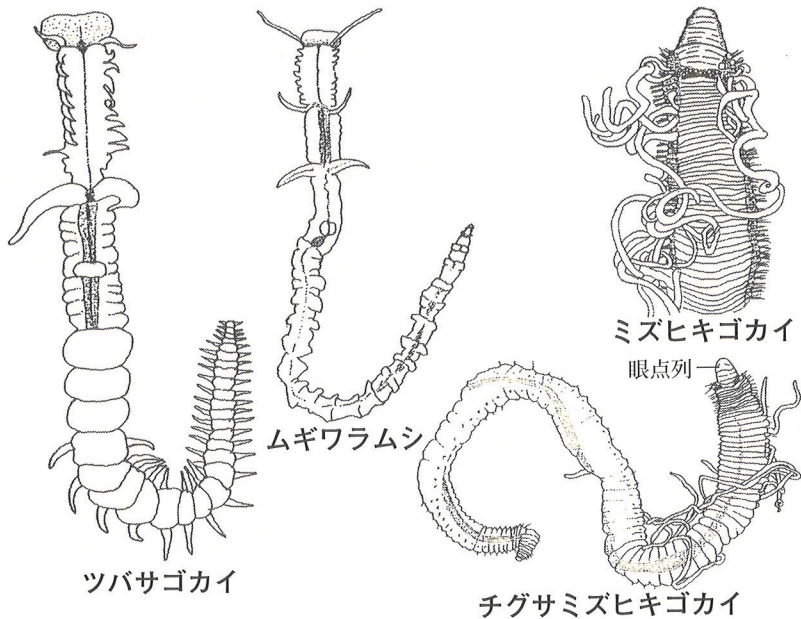
帯の砂底に棲息する。釣餌として利用される。

イソメ科

■イワムシ *Marphysa sanguinea*：体長数10cmに達する。転石海岸の低潮帯の砂泥中に棲息する。

ギボシイソメ科

■コアシギボシイソメ *Lumbrineris nipponica*：体長8cm前後。砂～砂泥質の河口干潟の潮間帯に普通に見られる。



ツバサゴカイ

ムギワラムシ

ミズヒキゴカイ
眼点列

チグサミズヒキゴカイ

【ツバサゴカイ目】

ツバサゴカイ科

■ツバサゴカイ *Chaetopterus varipedatus*：体長10cm前後。U字形の棲管を造る。その先端はストローの先のように地上に突き出る。砂～砂泥質の前浜干潟や浅海底に棲息するが、減少傾向にある。

■ムギワラムシ *Mesochaetopterus japonicus*：体長5～10cm。棲管の先は前種と同様であるが、棲管全体の形状は直線的で、開口は1ヵ所だけである。砂～砂泥質の前浜干潟に棲息

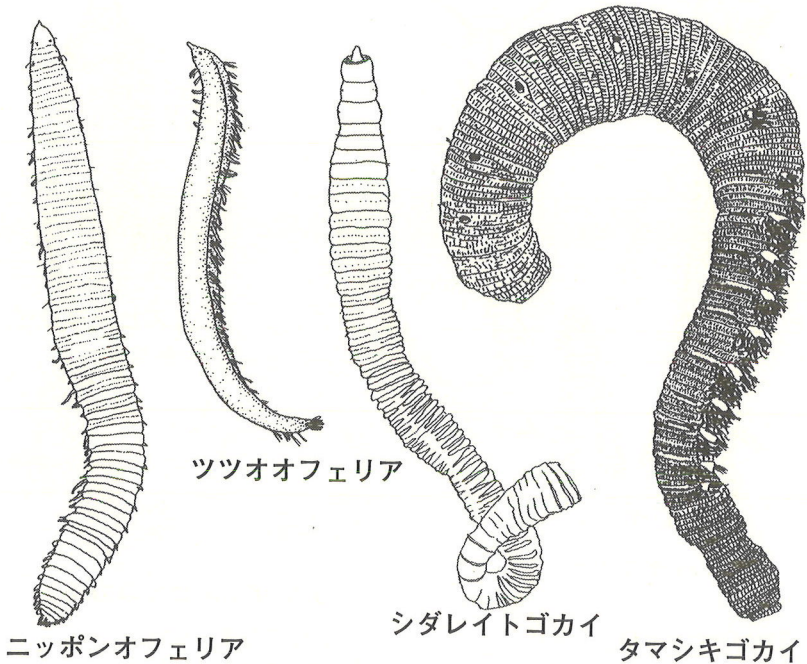
する。産地は多くない。

【ミズヒキゴカイ目】

ミズヒキゴカイ科

■ミズヒキゴカイ *Cirriformia tentaculata*：体長約5cm。体は砂泥の中に埋もれ、背触糸のみを水中に出してゆらゆらさせる。潮間帯から浅海底に至る砂泥地に普通に見られる。

■チグサミズヒキゴカイ *Cirratulus cirratus*：体長3～5cm。潮間帯から潮下帯の砂泥地に棲息するが、前種のように多産することはない。



ニッポンオフェリア

ツツオオフェリア

シダレイトゴカイ

タマシキゴカイ

【オフェリアゴカイ目】

オフェリアゴカイ科

■ニッポンオフェリア *Travisia japonica*：体長3cm前後，潮間帯から潮下帯の砂泥中に埋在する。

■ツツオオフェリア *Armandia lanceolata*：体長1cm，砂泥質の干潟に埋もれて生活する。

【イトゴカイ目】

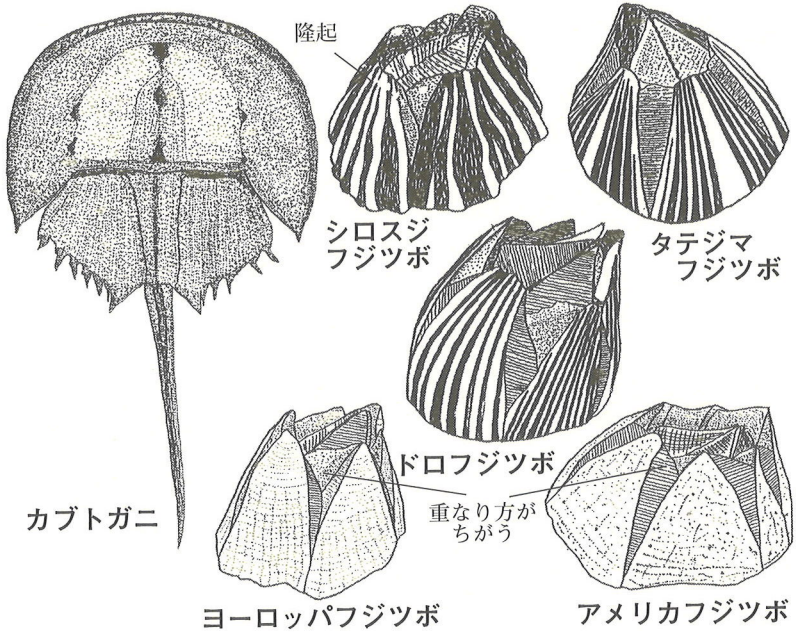
イトゴカイ科

■シダレイトゴカイ *Notomastus la-*

tericeus：体長10cm前後，砂泥質の干潟や海底に棲息する。干潟には本科の種が他にも多数棲息するが，肉眼での同定は困難である。

タマシキゴカイ科

■タマシキゴカイ *Abarenicola pacifica*：体長5cm以上，体色はさまざま，砂～砂泥質の干潟や海底に棲息，砂の表面に細長い渦巻き状の糞塊を積み上げる，また，透明で風船形の卵塊を砂の表面に産みつける。



【節口綱：剣尾目】

カブトガニ科

- カブトガニ *Tachypleus tridentatus*
：全長50cm前後。砂泥質の前浜干潟を産卵場所とするが、産地は限られている。

【顎脚綱：無柄目】

フジツボ科

- シロスジフジツボ *Balanus albicostatus*：殻径1~2cm。転石や護岸に固着する。内湾や河口の中潮帯で優占種となることが多い。
- タテジマフジツボ *Balanus amph-*

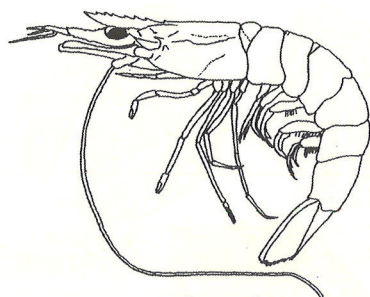
trite：殻径1.5cm。前種と同様の場所に棲息し、共存し、競合することもある。

- ドロフジツボ *Balanus kondakovi*：殻径2cmに達する。河口付近の汽水域に出現する。低潮帯に付着する。

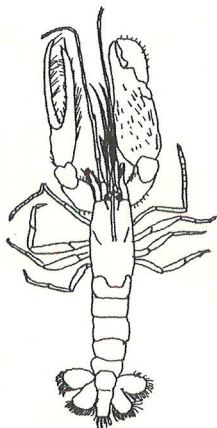
■ヨーロッパフジツボ *Balanus improvisus*：殻径1cm。内湾や河口付近の中~低潮帯に出現する。ヨーロッパ原産。

■アメリカフジツボ *Balanus eburneus*：殻径1~1.5cm。汽水域の中~低潮帯に出現する。北米大西洋岸原産。

【節足動物門：軟甲綱：十脚目：クルマエビ下目，コエビ下目】

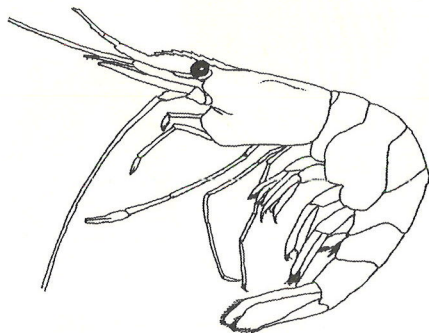


ヨシエビ

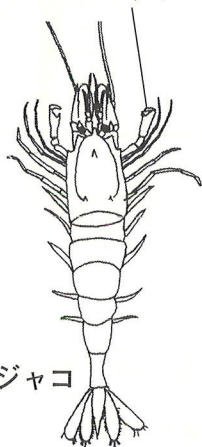


テッポウ
エビ

不完全な
ハサミ



シラタエビ



エビジャコ

【クルマエビ下目】

クルマエビ科

■ヨシエビ *Metapenaeus ensis*：体長約15cm。河口などの汽水域を成育の場としている。

【コエビ下目】

テナガエビ科

■シラタエビ *Palaemon (Exopalaemon) orientis*：体長6～7cm。河口な

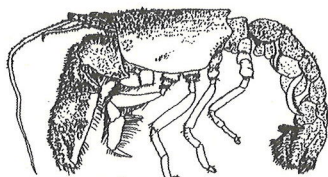
どの汽水域に棲息する。

テッポウエビ科

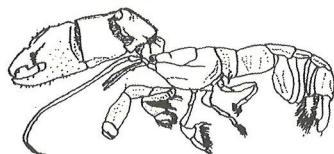
■テッポウエビ *Alpheus brevicristatus*：体長5cm前後。砂～砂泥質の干潟に穴を掘って棲む。

エビジャコ科

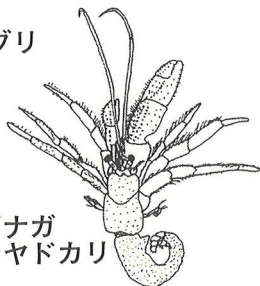
■エビジャコ *Crangon affinis*：体長3cm前後。内湾の砂泥質の低潮帯～海底に普通に出現する。



ハサミシャコエビ



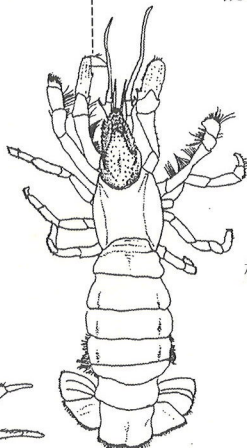
ニホン
スナモグリ



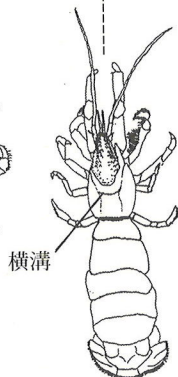
ユビナガ
ホンヤドカリ



鋭い歯



アナジャコ



横溝

ヨコヤ
アナジャコ

【アナジャコ下目】

ハサミシャコエビ科

■ハサミシャコエビ *Laomedia astacina*：体長約5cm。砂泥質の干潟に深さ数10cmの穴を掘って棲む。

スナモグリ科

■ニホンスナモグリ *Callinassa japonica*：体長約5cm。砂質の干潟に深さ数10cmの穴を掘って棲む。広範囲に群棲することが多い。釣餌として採捕される。

アナジャコ科

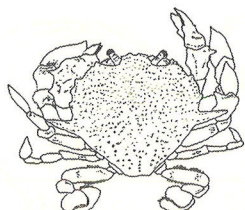
■アナジャコ *Upogebia major*：体長7cm前後。砂泥質の干潟から潮下帯に群棲する。1m前後に達する深い巣穴を掘る。

■ヨコヤアナジャコ *Upogebia yokoyai*：体長3～5cm。砂泥質の河口干潟に棲息する。

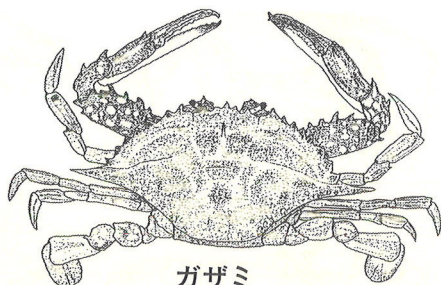
【異尾下目】

ホンヤドカリ科

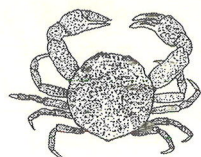
■ユビナガホンヤドカリ *Pagurus dubius*：体長2cm前後。汽水域にごく普通に見られる。



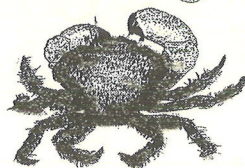
キンセンガニ



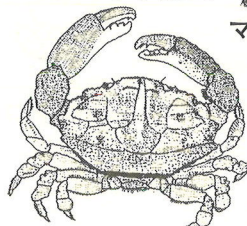
ガザミ



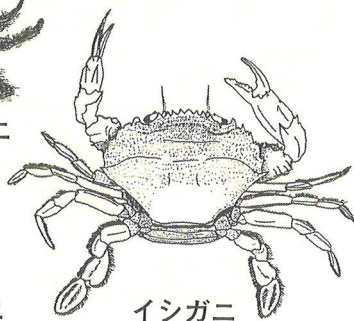
マメコブシガニ



マキトラノオガニ



シワオウギガニ



イシガニ

キンセンガニ科

■キンセンガニ *Matuta lunaris*：甲幅約3cm。砂質の干潟・潮下帯に棲息する。砂に潜って隠れる。

コブシガニ科

■マメコブシガニ *Philyra pisum*：甲幅2cm。砂泥質の前浜干潟に普通に見られる。

ワタリガニ科

■ガザミ *Portunus trituberculatus*：甲幅10cmを超える。海底に棲息するが、干潮時に低潮帯でも見つかる

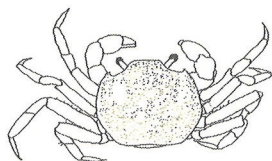
ことがある。

■イシガニ *Charybdis japonicus*：甲幅8cmに達する。潮間帯から海底まで広い範囲に分布する。

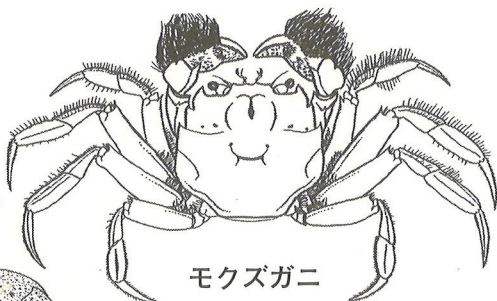
オウギガニ科

■シワオウギガニ *Macromedaeus distinguendus*：甲幅2.5cmまで。岩礁潮間帯の転石下に棲息する種であるが、汽水域にも出現する。

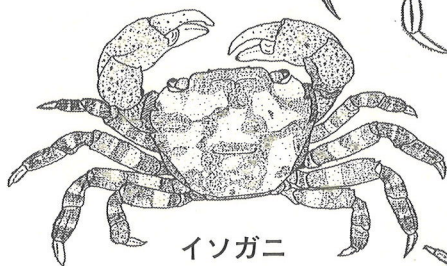
■マキトラノオガニ *Pilmunopeus makianus*：甲幅2cm。汽水域に分布し、カキ礁のすきまなどに棲息する。



トリウミアカインモドキ



モクズガニ

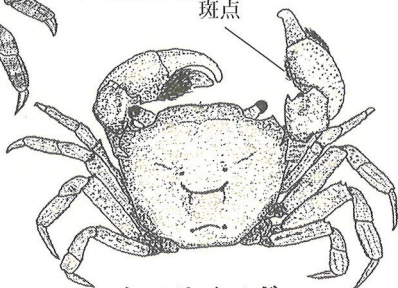


イソガニ



ヒメケフサイソガニ

ハサミの内面や
甲の腹面に紫色の
斑点



ケフサイソガニ

イワガニ科

■トリウミアカインモドキ *Acmaeopleura toriumii*：甲幅1cm前後。干潟の砂泥中に埋もれて生活する。

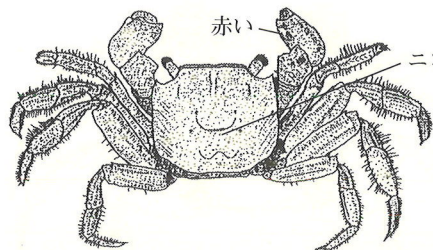
■モクズガニ *Eriocheir japonicus*：甲幅約5cm。河川の淡水域で生活するが、産卵のために海に降りる。干潟では遡上中の若い個体が見られる。

■イソガニ *Hemigrapsus sanguineus*：甲幅3cm。岩礁海岸の転石帯に棲息するが、内湾の奥や河口の近くに

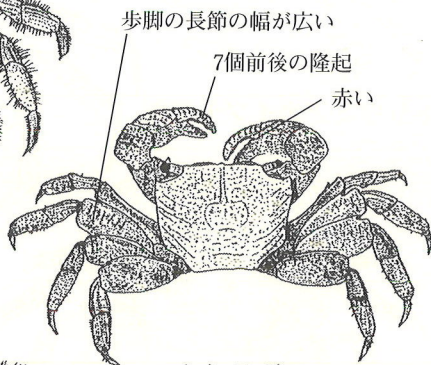
も出現する。

■ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*：甲幅2.5cm。雌のハサミには毛が無い。汽水域の転石下においてきわめてふつうに見られる。

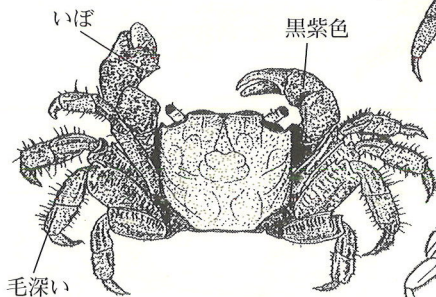
■ヒメケフサイソガニ *Hemigrapsus sinensis*：甲幅1cm。汽水域のカキ礁のすきまなどに棲息する。有明海特産とされていたが、近年、西日本各地で発見が相次いでいる。



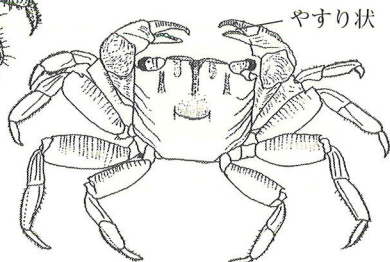
アカテガニ



クシテガニ



クロベンケイガニ



カクベンケイガニ

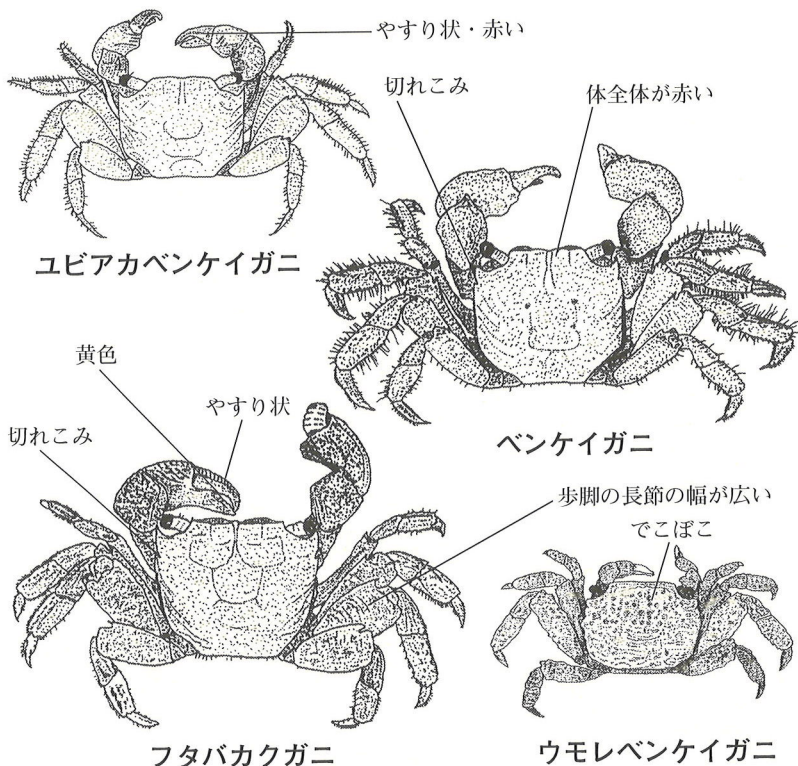
■アカテガニ *Chiomantes haematocheir*：甲幅3cm. 河川の感潮域の、水ぎわから離れた所で生活する。

■クロベンケイガニ *Chiomantes dehaani*：甲幅3cm. 河川の感潮域の高潮帯～潮上帯のヨシ原に穴を掘って群棲する。

■クシテガニ *Parasesarma plicatum*

：甲幅2.5cm. 感潮河川のヨシの茂った湿地に棲息するが、産地は限られている。

■カクベンケイガニ *Parasesarma pictum*：甲幅2cmまで。岩礁地帯の高潮帯の岩の割れ目などに棲息する。内湾の奥や河口域にも出現する。



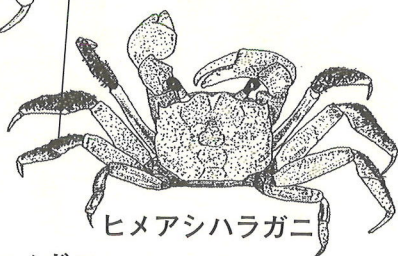
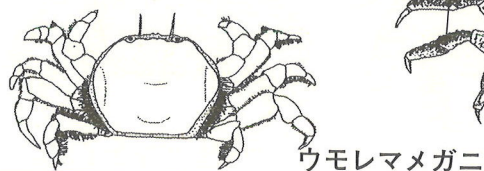
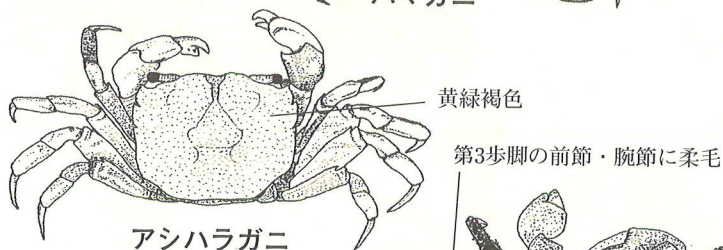
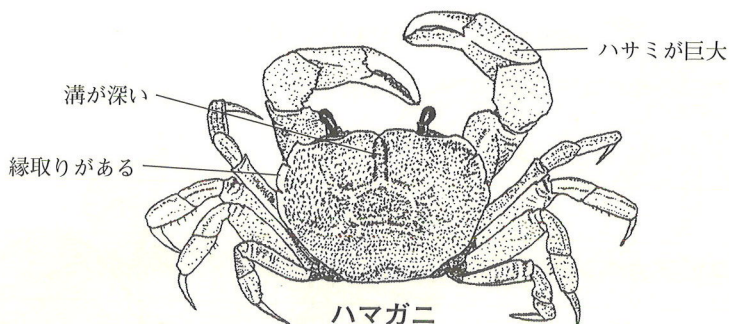
■ユビアカベンケイガニ *Parasesarma acis*：甲幅1.5cm。潮上帯の草地に多く見られる小形で敏捷なカニ。

■フタバカクガニ *Perisesarma bidens*：甲幅3cm。河口付近の水ぎわの転石や積石の間を隠れ家になっている。

■ベンケイガニ *Sesarmops intermedius*：甲幅3cm。河川の感潮域の周辺に穴を掘って生活する。アカテガ

ニヤクロベンケイガニと混棲することが多いが甲の前側縁に切れこみがあることで識別できる。

■ウモレベンケイガニ *Clistocoeloma merguense*：甲幅1.5cm。汽水～感潮域の水ぎわの湿地の転石下に棲息するが、記録は少ない。動きが鈍く、捕まえると死んだふりをする。



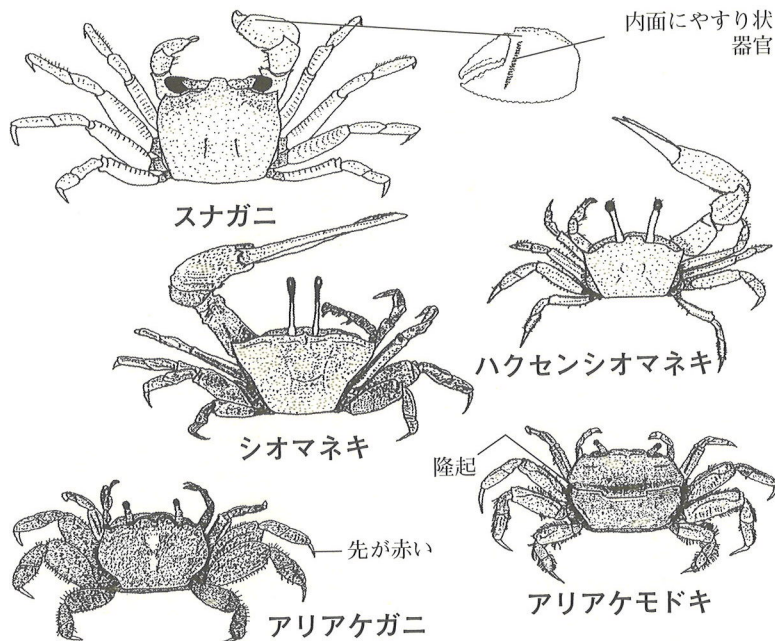
■ハマガニ *Chasmagnathus convexus*
：甲幅5cmに達する大形種。河口付近の潮上帯の小高い所に大きな穴を掘って棲む。夜行性で、ヨシの葉などを食べる。

■アシハラガニ *Helice tridens*：甲幅3cm前後。干潟に斜めの穴を掘る。棲息範囲は広いが、ヨシ帯の周辺に多く見られる。

■ヒメアシハラガニ *Helice japonica*
：甲幅2cm。干潟のオープンな所に穴を掘って棲息する。小形のカニなどを襲う。

カクレガニ科

■ウモレマメガニ *Pseudopinnixa carinata*：甲幅1cm。干潟の砂の中に埋没して生活する。記録は少ない。



スナガニ科

■スナガニ *Ocypode stimpsoni*：甲幅2cm。砂浜の満潮線付近に深さ数10cmの穴を掘って棲む。きわめて敏捷である。

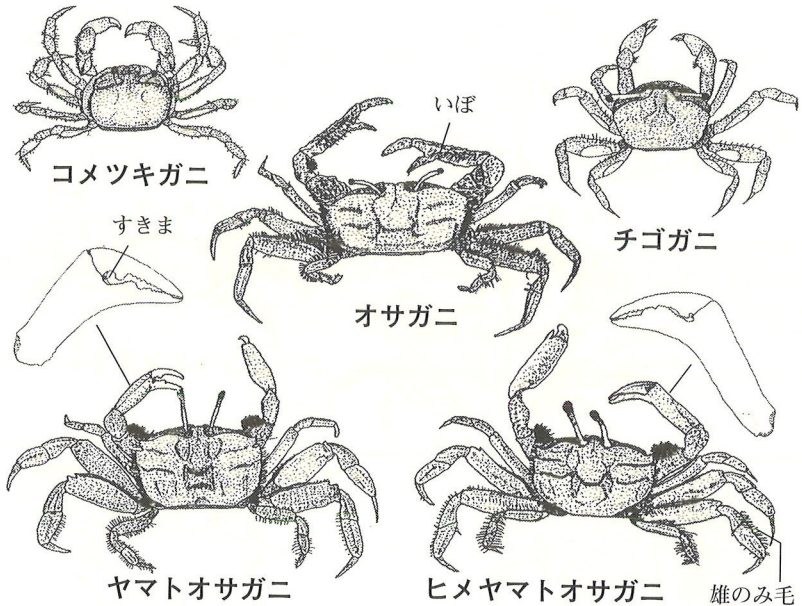
■シオマネキ *Uca (Deltuca) arcuata*：甲幅3cmを超える大形種。高潮帯の、やや固く締まった泥質の湿地に棲む。巣穴の入口は、茶碗を伏せたように盛り上がることが多い。

■ハクセンシオマネキ *Uca (Celuca) lactea lactea*：甲幅1.5cm。締まった砂質の干潟の中～低潮帯にいていねい

な巣穴を造る。干潮時に、雄は片方の大きなハサミを振り上げるウェイビングを行なう。

■アリアケガニ *Cleistostoma dilatatum*：甲幅2cm。高潮帯のヨシ原に棲息する。有明海の特産種で、産地はごく限られている。脚をひろげたまま擬死のポーズをとる。

■アリアケモドキ *Deiratonotus cristatus*：甲幅1.5cm。河川の感潮域の砂泥地に棲息する。腹側の赤い色があざやかである。



■**コメツキガニ** *Scopimera globosa* : 甲幅1cm. 高潮帯の水掃けの良いやわらかい砂地に浅い穴を掘って棲む。群棲することが多い。

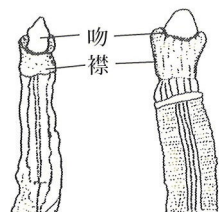
■**チゴガニ** *Ilyoplax pusilla* : 甲幅1cm. 干潟の中～低潮帯の水分の多い所に高密度で出現する。雄は両方のハサミを振り上げるウェイピングを頻繁に繰り返す。有明海の奥部には、雄の腹部がくびれる特徴をもつハラグクレチゴガニ *Ilyoplax deschampsii* が棲息する。

■**オサガニ** *Macrophthalmus abbreviatus* : 砂～砂泥質の前浜干潟の水た

まりに斜めの穴を掘って生活する。産地は多くない。

■**ヤマトオサガニ** *Macrophthalmus japonicus* : 甲幅3.5cm. 柔らかい泥質の干潟に斜めの穴を掘って棲む。高密度で出現する。雄はハサミを曲げたまま上に持上げるだけのウェイピングを行なう。

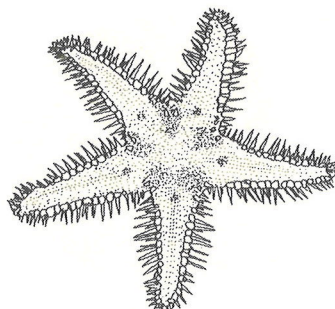
■**ヒメヤマトオサガニ** *Macrophthalmus banzai* : 甲幅2.5cm. 最近までヤマトオサガニと混同されていた。本種は相対的に外洋的な環境に出現し、雄はハサミを高々と振り上げて伸ばすウェイピングを行なう。



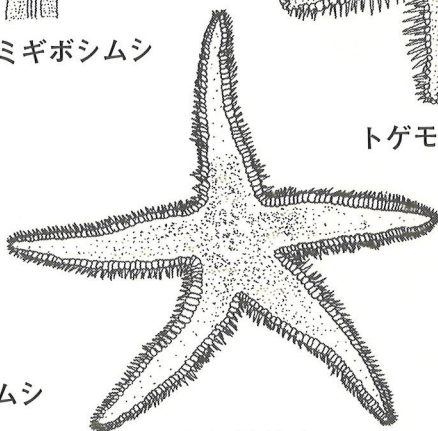
ワダツミギボシムシ



ミサキギボシムシ



トゲモジガイ



モミジガイ

【半索動物門：ギボシムシ綱】

ギボシムシ科

■ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus*：体長1mに達する。体は柔らかくちぎれやすい。干潟の砂泥中にU字形の棲管を造る。開口部には太い糞塊を渦高く積み上げる習性がある。産地は限られている。

■ミサキギボシムシ *Balanoglossus misakiensis*：体長10～20cm。砂～砂泥質の干潟の低潮帯に埋在する。糞塊を築くことはない。産地は限られ

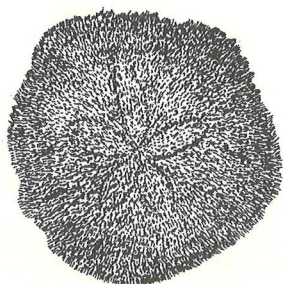
ている。

【棘皮動物門：ヒトデ綱：モミジガイ目】

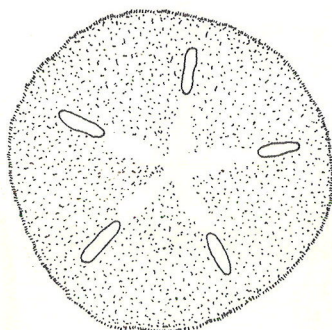
モミジガイ科

■トゲモミジガイ *Astropecten polyacanthus*：幅長（盤の中心から腕の先端まで）5cm前後。低潮帯から浅海底の砂～砂泥地にふつうに見られる。

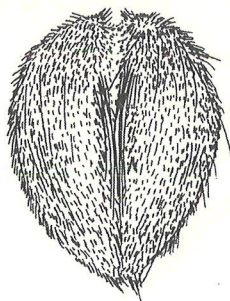
■モミジガイ *Astropecten scoparius*：幅長5cm前後。前種と同様の環境に棲息する。普通種。



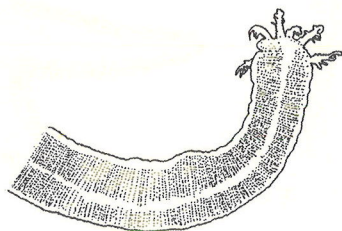
ハスノハカシパン



スカシカシパン



ヒラタブンブク



ヒモイカリナマコ

【ウニ綱：タコノマクラ目】

ヨウミヤクカシパン科

■ハスノハカシパン *Scaphechinus mirabilis* : 殻径5cm前後，生時は濃褐色～濃紫色，低潮帯から潮下帯の砂地に，時には高密度で出現する。

スカシカシパン科

■スカシカシパン *Astriclypeus manni* : 殻径10cm前後になる，生時は茶褐色，前種と同様の場所に棲息する。

【ウニ綱：ブンブク目】

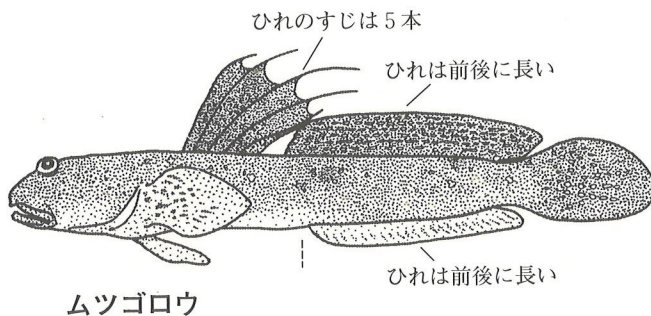
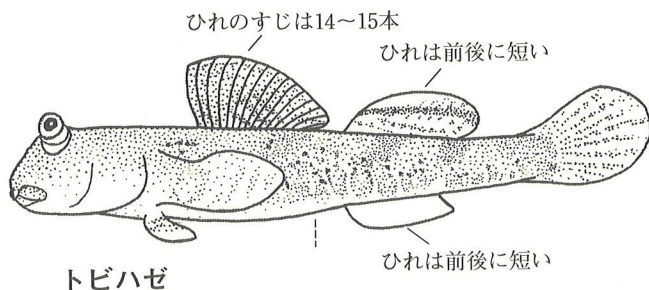
ヒラタブンブク科

■ヒラタブンブク *Lovenia elongata* : 長径5cm，生時は褐色，低潮帯から潮下帯の砂泥上を活発に這いまわる。

【ナマコ綱：無足目】

イカリナマコ科

■ヒモイカリナマコ *Patinapta ooplax* : 体長10cm程度，体は半透明，体壁には錨形の骨片が多数埋もれている，潮間帯～潮下帯の砂泥中に埋在する。



【ハゼ科】

■トビハゼ *Periophthalmus modestus*
 : 全長10cm. 河口域にすみ、干潮時、胸びれを使って泥干潟をはいまわり、小動物を食べる。満潮時は岸部にはい上がって、次の干潮を待つ。冬は越冬用の巣穴を掘り、休眠する。寿命は約2年。東京湾から沖縄島にかけて分布。干潟のよく残された瀬戸内海西部域の沿岸ではふつうに見られるが、大阪湾では1980年代以後、確かな記録はない。

■ムツゴロウ *Boleophthalmus pectini-*

rostris: 全長18cm. 日本では有明海と八代海の泥干潟だけに見られる。トビハゼによく似ているが、前の方の背びれのすじの数が少ないことで区別できる。また、植物食で干潟の泥表面にあるケイ藻を食べ、満潮時は潮をさけることもなく巣穴にこもって休む。驚いたりすると、トビハゼと同じように飛び出した眼を引っ込める。産卵期の5~7月には、波打ち際で雄の派手な求愛ジャンプが見られる。有明海周辺では重要な食用魚。寿命は2~3年。

和名索引

アカテガニ……………28	カクベンケイガニ……………29
アカニシ…………… 8	カブトガニ……………23
アゲマキガイ……………13	カリガネエガイ……………10
アサリ……………15	カワアイガイ…………… 7
アシナガゴカイ……………19	カワザンショウガイ…………… 5
アシハラガニ……………30	ガザミ……………26
アナジャコ……………25	キサゴ…………… 4
アメリカフジツボ……………23	キセワタガイ…………… 9
アラムシロガイ…………… 8	キヌカツギハマシイノミガイ…………… 9
アリアケガニ……………31	キンセンガニ……………26
アリアケモドキ……………31	クシケマスホウガイ……………16
イシガニ……………26	クシテガニ……………28
イシマキガイ…………… 4	クチバガイ……………12
イソガニ……………27	クリイロカワザンショウガイ…………… 5
イソシジミ……………14	クリイロコミミガイ…………… 9
イチョウシラトリガイ……………12	クログチガイ……………11
イトメ……………19	クロヘナタリガイ…………… 7
イボウミニナ…………… 6	クロベンケイガニ……………28
イボキサゴ…………… 4	ケフサイソガニ……………27
イワムシ……………20	コアシギボシイソメ……………20
ウネナシトマヤガイ……………14	コウロエンカワヒバリガイ……………10
ウミサボテン…………… 3	コケゴカイ……………19
ウミタケガイ……………17	コメツキガニ……………32
ウミニナ…………… 6	ゴカイ……………19
ウモレベンケイガニ……………29	ゴマノタマガイ…………… 8
ウモレマメガニ……………30	サクラガイ……………13
エビジャコ……………24	ササゲミミエガイ……………10
オオシャミセンガイ…………… 3	サビシラトリガイ……………13
オオノガイ……………16	サルボウガイ……………10
オカミミガイ…………… 9	シオフキガイ……………12
オキシジミ……………15	シオマネキ……………31
オサガニ……………32	シオヤガイ……………15
オチバガイ……………14	シダレイトゴカイ……………22
カガミガイ……………15	シボリガイ…………… 4

シマヘナタリガイ	7	ハサミシャコエビ	25
シラタエビ	24	ハスノハカシパン	34
シロスジフジツボ	23	ハナグモリガイ	16
シワオウギガニ	26	ハマガニ	30
スカシカシパン	34	ハマグリ	15
スガイ	4	ハラグクレチゴガニ	32
スゴカイイソメ	20	バカガイ	12
スジホシムシ	18	ヒバリガイモドキ	10
スジホシムシモドキ	18	ヒメアシハラガニ	30
スナイソゴカイ	19	ヒメケフサイソガニ	27
スナガニ	31	ヒメシラトリガイ	13
ソトオリガイ	17	ヒメヤマトオサガニ	32
タイラギ	11	ヒモイカリナマコ	34
タケノコカワニナ	6	ヒラタヌマコダキガイ	16
タテジマフジツボ	23	ヒラタブンブク	34
タマキビガイ	5	ヒラドカワザンショウガイ	5
タマシキゴカイ	22	ヒロクチカノコガイ	4
チグサミズヒキゴカイ	21	フタバカクガニ	29
チゴガニ	32	フトヘナタリガイ	7
チロリ	20	ヘナタリガイ	7
ツツオオフエリア	22	ベンケイガニ	29
ツバサゴカイ	21	ホソウミニナ	6
ツボミガイ	4	ホトトギスガイ	11
ツメタガイ	8	マガキ	11
テッポウエビ	24	マキトラノオガニ	26
テリザクラガイ	12	マゴコロガイ	12
トゲモミジガイ	33	マテガイ	14
トビハゼ	35	マメコブシガニ	26
トリウミアカイソモドキ	27	マルウズラタマキビガイ	5
ドロフジツボ	23	ミサキギボシムシ	33
ニッポンオフエリア	22	ミズヒキゴカイ	21
ニホンスナモグリ	25	ミドリシヤミセンガイ	3
ニンジンイソギンチャク	3	ムギワラムシ	21
ハイガイ	10	ムシヤドリカワザンショウガイ	5
ハクセンシオマネキ	31	ムシロガイ	8

ムツゴロウ……………	35	ユピアカベンケイガニ……………	29
ムラクモキジビキガイ……………	9	ユビナガホンヤドカリ……………	25
ムラサキイガイ……………	11	ユムシ……………	18
モクズガニ……………	27	ヨーロッパフジツボ……………	23
モミジガイ……………	33	ヨシエビ……………	24
ヤマトオサガニ……………	32	ヨコヤアナジャコ……………	25
ヤマトシジミ……………	14	ワダツミギボシムシ……………	33
ユウシオガイ……………	12		

(p.2から続く)

§ 干潟に着いたら

見通しのよい高台を見つけて、地形を把握し、双眼鏡でカニなどをさがしてみましよう。干潟に降りたら、ぬかるみに注意しながらそっと歩くようにします。カニの穴がたくさんあいている所が見つかったら、しばらくじっとしていきましょう。やがてぞろぞろ出てきます。所々で移植ごてで掘って、干潟に埋もれている二枚貝などを探してみましよう。ヨシ原があれば、中に分け入ってみましよう。

§ 身近な川をしらべてみよう

もし、あなたが住んでいる近くに河口があれば、水ぎわをのぞいてみましよう。ちょっとした所に泥がたまっていて、カニの穴があいているかも知れません。護岸をマルウズラタマキビガイが這っているかも知れません。案外、きちんとした生物の記録のない川が多いのです。見つけたら、ぜひ博物館に知らせて下さい。

ミニガイドNo.17 干潟に棲む動物たち

編 集	大阪市立自然史博物館 (担当：山西良平)
著 者	山西 良平 (大阪市立自然史博物館 動物研究室) 波戸岡清峰 (大阪市立自然史博物館 動物研究室)
発 行	大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号
発行日	1999年3月31日
印 刷	株式会社 西岡印刷所 ©大阪市立自然史博物館, 1999

執筆分担 魚類以外：山西良平，魚類：波戸岡清峰



